

## 【66】ゼロメートル地帯の恐怖

数年前のこと、JR 横須賀線の東京から品川へのトンネル区間の一部が 70m にわたり大雨でもないのに浸水し、レールも冠水して電車は上下線とも 12 時間以上にわたって運転中止に追い込まれました。

原因は、地下深いトンネルなのでどうしても湧水があり、それを排水するためポンプが設置されているのですが、そのポンプの吸水口に泥土がつまり、排水能力が大巾に低下したためと云います。幸い人身被害もなく原因も明確だったこともあり、たいしたニュースになりませんでした。よく考えると大災害の可能性を想像させる事故なのです。

今の東京の下町の低地には、高度成長期の地下水の過剰汲み揚げにより地盤沈下を起して生じた広大なゼロメートル地帯があります。地面の高さが東京湾の満潮位より低い土地のことで、ひどいところは干潮位よりも低いのです。そのような土地は自然のままでは水没し、とくに干潮位より低い土地は水がたまって湖になってしまうはず。そこに現在、数十万人の人々が生活しています。

長年の努力の結果ではありますが、河川堤防や海岸堤防でゼロメートル地帯をとり囲み、市街地には下水道がはりめぐらされ、生活排水は下水処理場を経由し、雨水は直接に多数のポンプで荒川や隅田川の河川あるいは東京湾へ排水しているので、街中を見ても高台の山の手地域と何ら変わるところはありません。しかし、その平穏さ、平常性は、点滴で小康状態にある重病人と同様のもので、ひとたび点滴が途切れたら一大事なのです。

ゼロメートル地帯の数十万人の人々の活動、生活の一切は排水ポンプの健全性に 100% 依存しているという異常性を我々は認識せねばなりません。